

銘柄分析レポート：長期集中投資

1 はじめに

皆さんの中には、米国の達人投資家、ウォーレン・バフェット氏に憧憬の念を抱いている方もいらっしゃるかと思います。

私のその一人です。もう四半世紀も前のことですが、投資の名著『ファンド・マネジャー』（後に『マネーマスターズ列伝』として再編）に長期集中投資の名手として紹介されていたバフェット氏の章を、何度も読み返したものです。

とりわけ印象に残っているのが次の言葉です。

産業界というものは、金を払って投資するに値する、極めて少数の一流企業と、長期保有する魅力が全くない、膨大な数の二流企業から成り立っている。

しかし、いざ投資を始めてみると、そんな憧れもどこかに吹き飛んでしまいました。

1997年のアジア通貨危機、1999年のITバブルとその崩壊、2003年のりそな国有化を転機とした株高、2008年のリーマンショックが引き起こした世界同時株安、2013年からのアベノミクス相場・・・。

激動するマーケットに振り回される形で、後から顧みれば、見苦しい売買をドタバタ繰り返していました。

不幸中の幸いは、運にも助けられて、何とか退場させられず、ある程度の経験値を積めたことでしょうか。

ただ今後に関しては「はたして、そんなことの繰り返しでいいのか」という思いがあります。

「投資家人生の総仕上げとして、初心者時代の夢を実現すべく、バフェット流の長期集中投資を実践してみたい」という気持ちを常に持っているのです。

今までの四半世紀は、そのための準備期間だったのかもしれませんが。

今回の銘柄分析レポートでは、長期集中投資とそれにふさわしい銘柄について取り上げます。